

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 フタール枚方駅前		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 4月 1日		～ 2026年 4月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	開所前から支援の流れや役割分担について検討し、スムーズな運用に向けた準備を行っている。	・支援開始を想定し、1日の流れや役割分担を事前に整理している/・支援前後の打ち合わせを想定した運用ルールを整備している /・記録様式や情報共有の方法を統一し、スムーズな支援運営に備えている	・実際の利用開始後は、想定している支援の流れや役割分担が適切に機能しているかを検証し、必要に応じて見直しを行う
2	会議や記録の仕組みを整備し、情報共有を重視した体制づくりを進めている。	・定期的な会議の場を設け、支援内容や対応方針について事前に共有している/・記録や掲示物等を活用し、情報が個人に偏らないような仕組みづくりを進めている/・役割分担を明確にし、チームとして支援できる体制を意識している	・支援計画や日々の記録を活用し、職員間で共通理解を持った支援が行える体制を確立する
3	個別活動と集団活動の両面を想定し、児童の特性に応じた支援ができるよう準備している。	・個別活動・集団活動の両方を想定したプログラムを複数準備している/・活動が固定化しないよう、スケジュールや内容のバリエーションを検討している/・児童の特性に応じた支援が行えるよう、環境設定や関わり方の工夫を事前に検討している	・実際の児童の特性や反応を踏まえ、活動プログラムの見直しや改善を継続的に行う

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	実際の利用児童に対する支援実績がなく、運用面の検証がこれからである。	開所直後であり、実際の利用児童の受け入れがこれからであるため、支援の一連の流れ(アセスメント・計画作成・実施・振り返り)を実践ベースで検証する機会がまだない状況です。	・利用開始後は、アセスメント・支援計画・モニタリングの一連の流れを確実に実施し、実践を通して支援の精度を高めしていく
2	学校や相談支援事業所等との具体的な連携は今後の課題である。	現時点では利用児童がいないため、個別ケースを通じた学校や相談支援事業所等との具体的な連携機会がまだ発生していない状況です。	・学校や相談支援事業所との連絡体制を整備し、情報共有を開始する
3	交通量の多さなど立地上的の制約がある。	これは構造的・立地的な要因であり、運用面での工夫や安全管理体制の強化により対応していく必要があります。	・交通量等の外的リスクを踏まえ、安全管理体制や見守りの強化を図る